深く考える子 思いやりのある子 強くたくましい子 令和6年3月22日(金)

卒業おめでとうございます

本日、卒業証書授与式が行われ、6年生4名の子どもたちが西興部小学校を巣立っていきました。小学校生活6年間で心も体も大きく成長させ、この1年は最高学年としての責任を立派に果たしてきた4名の子どもたちの卒業を祝い、卒業生に伝えたメッセージ、式辞全文を掲載させていただきます。

西興部村立西興部小学校 第77回 卒業証書授与式 式辞

日を追う毎に暖かさが増し、春の息吹が感じられる今日の良き日に、西興部村教育委員会教育委員 松浦 隆子様をはじめ、御来賓の方々、保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに卒業証書授与式を挙行できますことを深く喜び、心よりお礼と感謝を申し上げます。

さて、本日西興部小学校を巣立っていく四名の卒業生の 皆さん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは今、西 興部小学校での六年間の小学校生活を終え、新しい世界へ 旅立とうとしています。小さな背中に大きなランドセルを 背負い、おうちの人に手を引かれながら校門をくぐった入 学式から六年の月日が流れ、心も体も大きく成長させたみ なさんが、今ここにいます。ステージ上で堂々と胸を張っ てスピーチする姿を大変頼もしく、そして誇らしく感じて います。

この春から中学生になる皆さんの卒業にあたり、「まごころ」の大切さについてお話をしておきたいと思います。 最初に、今年の二月、北海道新聞の「読者の声」によせられた「まごころ育て優しい街へ」という投稿記事を読み上げて紹介します。

『この街は優しいですか?私の友人である小学校の教師が、児童たちにそう尋ねたのは昨年の十月。街中のユニバーサルデザインを探す授業があり、子どもたちは点言の教師の問いに対して概ね肯定的な答えをしたそうだ。目が不自由な私としては、できれば積雪のあるこの時季にに対かめてほしい。点字ブロックは雪に埋もれ、車いすらにながめてほしい。点字ブロックは雪に埋まなるしているが困難だ。児童たちはおそらく十月とは異なるしていてが困難だ。児童たちはおそらく十月とは異なるしていてが困難だ。児童たちはおそらく十月とは異なるしていてが困難だ。児童たちはおそらく十月とは異なるしていてまたが、別職だなくても、考えることで他の人を思いたらい、結論はでなくても、考えることで他の人を思いたけい。結論はずだ。人の「まごころ」に勝るユニバーちがけているはずだ。次い思いやりや親切な心をもつ人たちが住む街こそ、きっと優しい街となるにちがいない。』

卒業生のみなさんも総合の学習で学んで知っているように体の不自由な人や高齢者など多様な人々の助けになる環境づくり、人に優しい街づくりが全国各地で進められ

ています。しかし、紹介した記事にあるように、見方を変えると、十分な助けになっていないということも実はあるようです。多様な人々を手助けする社会の仕組みも大切ですが、相手の立場になって、深い思いやりをもてる一人一人の「まごころ」を育てることが何よりも大切であると、この記事は訴えています。

さて、西興部小学校には、毎日みなさんの登校を見守っ ている二宮金治郎(尊徳)像がありますね。かつては日本 全国、二万五千校に同じような金治郎像がありました。薪 を背負いながら書物を読む姿から、「勤勉・勤労」の象徴で、 小さなことをこつこつ積み上げていく大切さを伝えてき ました。その二宮金次郎さんが一番大切にしたことが、実 は「まごころ」だと言われています。「まごころ」とは、「嘘 や偽りのない本当の心のこと」で「まごころ」が無いと、 自分の考えや行動を他の人は理解してくれないし、相手の 気持ちも感じとることができなくなると言います。四名の 卒業生のみなさんには、この「まごころ」が育っていると 私は感じています。楽しい時、良い時だけではなく、仲間 が困っている時、ピンチの時も、近くで寄り添って見守っ たり、優しく励ましたりする姿をたくさん見てきました。 今日、西興部小学校を卒業するみなさんにすでに備わって いるこの「まごころ」をいつまでも大切にして、中学校へ 進んでも、陰ひなたなく互いを支え合い、共に力を伸ばし ていくことを期待しています。

保護者の皆様に一言申し上げます。お子様が本日、立派に小学校を卒業されますことを、職員を代表しまして心よりお祝い申し上げます。小学校卒業という節目を迎えられ、これまでの苦労が大きな喜びにかわっていることと存じます。この六年間、本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げ、これからもお子様が健やかにたくましく成長されますようお祈り申し上げます。

また、ご来賓の皆様にはご多用の中、ご臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。卒業生に対するこれまでのご厚情と本校教育へのご支援に対して、改めて深く感謝申し上げます。

最後になりますが、大きな夢と希望をもち、自身の可能性を信じて歩みを進める卒業生の皆さんに輝かしい未来がまっていることをお祈りして、式辞といたします。







3月の異動で転出する職員・退職する職員をお知らせします

◎ 教頭

西興部村では、上興部小学校最後の1年と統合した西興部小学校での最初の1年の、2年間大変お世話になりました。村内2つの学校で教頭や担任として勤務させていただいたことで、子どもたち、保護者、地域の皆さんと素晴らしい出会いがたくさんあり、多くの貴重な経験や思い出ができました。心から感謝申し上げます。

夢興す村一にしおこっぺで学んだ「なりたい自分や夢」にむかって、新天地でも、子どもたちのため、 地域のために、できることを精一杯行っていきたいと思います。

西興部村の皆さん、本当にありがとうございました。

教諭

西興部小学校に赴任することが決まり、フェリーに乗って、苫小牧を経由し、西興部村にようやく着いた晩のこと。テレビをつけると、「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国の小中高校を臨時休校とします。」というニュースを聞いた翌日から、子どものいない学校で教員としての仕事が始まりました。たくさんの不安がありましたが、明るく優しく素直な西興部の子どもたちに元気をもらい、とても楽しく働くことができました。また、西興部村の人たちの太陽のような暖かさに何度も助けられました。保護者の皆様、今まで多くの場面でご協力いただき、本当にありがとうございました。西興部小学校の子どもたちの更なる成長を心から願っています。

◎ 期限付教諭

西興部村に来て早一年。バス停を降りて、いよいよ初めての北海道生活が始まると思ったのがつい先日のように感じます。一年を通して生活してみることで、北海道で生活する良さや大変さ、面白さをたくさん味わうことができました。旅行にもたくさん行くことができ、北海道の雄大さや魅力に触れることができました。各地で食べるグルメは言葉に表せられないほど美味しかったです。そして、何より西小学校で子ども達と過ごした時間は自分にとって本当に宝物になりました。子どもたちの笑顔や成長を見守ることができたことに心から感謝しています。皆様との素晴らしいご縁に感謝し、これからも西興部村や子どもたちの輝かしい未来に思いを馳せながら、

新たな場所でも精一杯の活動を続けていきます。

一年間、ありがとうございました。



- ※4月生活目標…友だちと仲よくしよう!
 - ・学習のきまりを知ろう・自分のからだを知ろう・ 遊びの輪を学校に広げよう・給食のきまりを身につけ、当番をしっかりやろう ・正しい清掃の仕方をおぼえよう